

第7回 Pitch to the Minister 懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

○日時：平成30年11月20日(火)10:00~11:00

○場所：中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室

○Pitch テーマ1:「被介護者の“自立支援”の産業化に向けて」

○招へい者：中西 敦士 トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社代表取締役社長

○Pitch テーマ2:「スマートロック Akerun の今後の展望と成長のカギ」

○招へい者：河瀬 航大 株式会社フォトシンス代表取締役社長

○出席者：平井国務大臣、

三輪 CIO、幸田内閣府審議官、住田知財事務局長

大坪次長(医療)、宮原参事官(医療)、山田参事官(IT)、石井企画官(科技)、

寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 中西代表取締役社長からの説明 (テーマ1)

トリプル・ダブリュー・ジャパン株式会社は、世界で初めて排泄予測ウェアラブルである「Dfree」を開発した。世界では、老若男女を問わず、約5億人が排泄に関する悩みを抱えている。介護における業務負担の一位が排泄とされており、また、介護施設における排泄ケアの関連費用の約25%が排泄ケアの関連費用に費やされている。現在、日本で介護施設向け・一般向けサービスの提供を行っているが、9月から米国でサービスを開始、今月からフランスでも販売開始し、その他、世界60か国以上から問い合わせがある。

オランダなどに比べ、日本の自立支援、介護・医療の分野では、本人の生きる意欲にフォーカスがまだ十分に絞られていないのではないかと。超高齢社会の中で出てきた介護ITサービスというものをごんごん海外に広げていきたいと思いますという構想はあるが、実はそのベースとなっている社会保障制度については日本と世界との間で相違がある。それを理解した上で世界でも通用するサービス・IT機器を開発して、世界でも戦える企業を育成していく必要がある。

3. 主なやりとり(テーマ1)

介護を産業としていく上で、日本が特殊な状況であるので、海外に出るのも難しい。また、それを活用するインセンティブをしっかりと付ける必要もあり、リハビリを始めとするアウトカム評価を通じたサービスの質の確保が重要であり、競争が生まれないと質もバラバラになってしまうとの意見があった。

排泄に関する正確なデータを取ることが重要であるが、良否の基準が必要。データは山のようにあるが、日報のようなもので、曖昧なものも多く、正確なデータを取るためにはIT化が重要であり、政府においても検討が必要であるとの意見があった。

4. 河瀬代表取締役社長からの説明 (テーマ2)

株式会社フォトシンスは、IoTの機構を活用し、世界初のAkerun(アケルン)という入退室管理システムを開発した。シェアリングエコノミーを加速していくためには場所のシェアが必要だが、鍵の受け渡しは大変であるため、鍵の受け渡しをなくすという発想から開発を始めた。

同システムの利用によりスケジュール管理が可能となるため、アルバイトに時間限定でのスペースを使用させるといった使い方もできるようになる。また、利用履歴が確認できるため、民泊などに活用できる。さらに、入退室データを使った勤怠管理や高齢者の見守りサービス等にも活用されている。全ての鍵がクラウド化している世の中を目指している。

5. 主なやりとり(テーマ2)

助成金・補助金による支援に加え、イノベーション・テクノロジー分野における規制緩和も検討してほしい。規制緩和しないと日本で起業する意味がなくなり、緩和されている他の国で起業することになってしまうので、是非、先進国として色々な国から「日本が規制緩和した」と、驚きをもって迎え入れてくれるようになっていただきたいとの意見があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)